

東京西徳洲会病院 全国先行9施設として

新型ディスプレイポージブル内視鏡導入 感染対策などで有効 需要高まる

東京西徳洲会病院(昭島市松原町、佐藤一彦院長)は、3月から国内でも使用可能となった新型ディスプレイポージブル(使い捨て)内視鏡(アンブ社製カストロ)を導入した。全国で先行導入した9施設に選ばれたもので、同病院内視鏡センター(山本龍一センター長)では4月4日までに激しい出血患者の止血処置など3症例に使用した。(岡村信良)

ただ、新型コロナウイルス感染症対策が厳しくなるなど、感染対策などが必要だが、袋から取り出すとすぐに使用できる使い捨て型のニーズが高まっている。左写真がアンブ社製カストロ。緊急時の処置や高度な感染管理が求められる場面でも需要が増している。



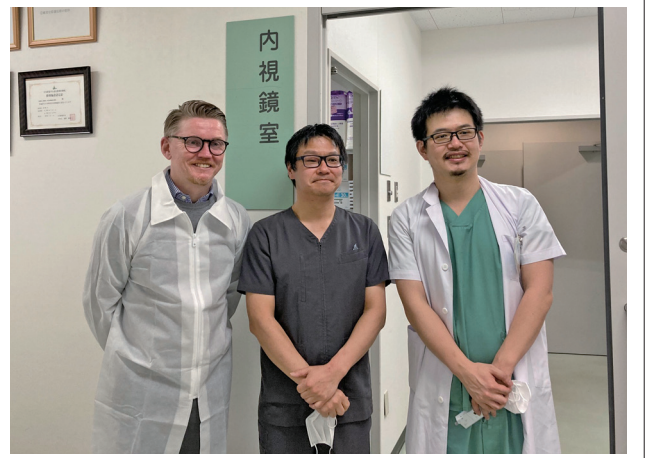
新型ディスプレイポージブル内視鏡を導入した東京西徳洲会病院。佐藤院長(右から5人目)らの期待も高い

内視鏡センターは2017年4月から内視鏡光源を最新に一新。20年JCI取得に伴



初めて開発したデンマークの医療機器メーカーアンブ社が最大手。2021年は約150万本を販売し、日本国内でも展開する。使い捨て型の世界市場規模は急成長を遂げており、再使用型で世界トップにある日本の各医療機器メーカーも使

い内視鏡センター内の改修工事を行い、現在検査室4室(3室稼働)と最新の多目的デジタルX線TVシステム(Ulimate)を備えた専用の透視下内視鏡検査室1室で、内視鏡を使った検査や処置を行っている。受付事務2名、ステリ(内視鏡洗浄など)3名、臨床工学技士2名、看護師10名、内視鏡医9名とスタッフも充実。22年の内視鏡検査・処置の総件数は8149件にのぼるとい



来院したアンブ社開発担当を歓迎する山本内視鏡センター長(中)ら

人間ドックの内視鏡検査はもちろん、専門的治療として食道、胃、十二指腸、大腸に至るまで各臓器における内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、外科と合同で施行する腹腔鏡・内視鏡合同手術(LIGS)、胆管炎や閉塞性黄疸にも行われている。山本内視鏡センター長(47)は、01年に防衛医大を卒業。防衛省に勤務後、上尾中央総合病院、埼玉医科大学総合医療センターを経て、17年に東京西徳洲会の消化器内科に赴任した。現在、内視鏡センター長のほか、消化器病センター長、肝胆

どこに行っても治らなかった方へ(3密対策を徹底)
秋川駅北口 (エアドック設置) 43年の実績
太田ハリ灸治療院
042(550)5591 完全予約診療(当日予約も可) 土日も診療
初診料 3,000円
治療費 3,500円 (学生2,500円)
坐骨神経痛、ヘルニア(腰、頸椎)、脊椎管狭さく、五十肩、ひざ関節症、肩こり、エルボ(テニス・ゴルフ)、湿疹、スポーツ障害など
あきる野市出身の演歌歌手、三田りょうさんとこつてステイジやロケ番組の収録の際、足腰の痛みなどは禁物。太田ハリ灸治療院で万全な身体を維持しています。
あきる野市秋川1-1-13ABCビル3階
秋川駅徒歩1分

研究分野にも注力している。山本内視鏡センター長は「今年3月、佐藤一彦病院長が就任し、病院としてもセカンドステージに向かっている。病床数も486床から更に増床され、西東京、多摩地区の中核病院として前進する中、内視鏡外科のエキパートである高山悟副院長が就任され、医療環境が強化されている」とした上で、「急性期病院である当院では時間外での緊急内視鏡やICUでのベッド

サイドにおける内視鏡処置症例は増加傾向にある。革新的で使い勝手のよい新型ディスプレイポージブル内視鏡の導入は心強く、これまで出血性胃潰瘍や進行胃癌から出血された患者の止血処置などで使用した。今後はデータ解析を進め、学会の論文で報告し、臨床現場で役に立たい」と話す。
4月4日にはアンブ社の開発担当者が来院、内視鏡センター内を見学し、意見交換した。

新聞部を創部、初代部長に

部活動が活発な菅生高校に新聞部があったことを知る人は何人いるだろうか？

開校2年目、「新聞部をつくりたい」と生徒からの直訴を受けた近藤英一教諭らは島田久理事長に相談。「1人でも2人でも生徒から要望があれば応えてほしい」が理事長の方針。バスケット部やサッカー部など複数の部活を掛け持ちしていた近藤教諭が顧問に就任。新聞部が誕生した。

高校同窓会から版

東海大学菅生高校 菅生川蟬会 第5号



新聞部の思い出を語る清水さん

「学校のことをもっと知りたい。報せたい」が動機だった。直訴した1期生の清水裕之さんが部長となり、吉田さん、立花さんの3人で創刊号発行に向けて動き出した。その名も「菅生新聞」。A4判4ページ建て。題字は初代の島村教次校長が筆を執った。企画を練り、取材に飛び回り、季刊の発行を目指した。「忘れないですよ」

1期生 清水裕之さん(立川市) 政治家島田久理事長の秘書も 「学校のことを知りたい。報せたい」

創刊号は先生方が取材対象でした。教科、出身大学などプロフィール記事を顔写真入りで紹介した。印刷は同級生の親が経営する福生市の太陽印刷。刷り上がった新聞を手にした喜びは今も鮮明だ。最も印象に残るのは、島村校長が辞任した際、次の校長をめぐる動きを追った記事だ。当時は中曽根政権で、総理は風見鶏と揶揄された。これをもじり、「島村校長辞任で揺れ動く教員間の派閥 菅生の風見鶏は誰だ」との衝撃的な見出しを付けた。さすがに発行を許可するが問題になった。「マスコミらしくいいじゃないか」と島田久理事長は評価しながらも、寸前で停止となった。結局、校長はしばらく島田久理事長が兼務した。スクープを追った清水さんらの卒業後新聞部は間もなく廃部になった。

清水さんは大手旅行会社、病院勤務を経て政治家を目指し議員秘書になった。地元選出の都議、衆院議員をふり出しに、自民党を離れ民主党に籍を置いていた鳩山邦夫氏、そして都議、衆院議員を務めた島田久理事長に仕えた。20代半ばから30代半ばの8年ほどだったが、社会勉強と人脈づくりで大きな財産になった。

1期生は菅生の最初の時代をつくる先兵だから自由闊達な学校生活を送らせてもらったのかもしれないと感謝の思いでいっぱいだ。

目標はダンススタジアム全国大会 創部7年ダンス部 感動に震える演技を

33期生 長谷川笑花教諭

プな身のこなしや素早い動き、みんなが振り揃えるシンクロなどのカッコよさに魅かれ、高校のダンス部の人気が高まっている。菅生高校ダンス部(顧問・河野誠教諭、長谷川笑花教諭)も毎年40人ほどの部員が、自身も、見る人も感動に震えるダンスパフォーマンスを目指して練習に励んでいる。



部員は男女半々。菅生ダンス部の個性ともなる

2024年パリ五輪練習が待っている。細貝侗々部長(3年)ではブレیکن(ブレイクダンス)が種目として初めて採用される。ダンスはスポーツ。しかもきつい。練習は週に6日。片面鏡張りの講義室で2〜3時間、振り付けを確かめ、体のキレや、仲間との動きの同一性を確かめる。3分間動き続けられれば肉体は悲鳴を上げる。だが、悲鳴を上げ続けた先に、目指すダンススタジアムの予選突破がある。男女の区別なく部内のオーディションで12人を選抜。8月のダンススタジアム予選まで、12人を中心に踊り、12人を中心としたテーマを決め、振り付けを考え、ダンス演技を爪先まで覚え込む。

長谷川笑花教諭は昨年度、新任の理科教諭として同校に赴任。ダンス部顧問となり、技術指導する。その指導ぶりは正に水を得た魚のようだ。2歳からバレエを習っていた長谷川教諭はある都立高校ダンス部に憧れ、受験したが失

方、ダンスも続けた。青春を賭け、東京デイズ二リーグのオーディションでパフォーマンを行うダンサーを目指しオーディションに挑戦した。専門のダンススクールに通って臨んだが、100倍を超える壁に2度打ち返された。

「高校ダンスは1つのジャンル。全員がダンス部を任せられ、生徒たちと互いの成長を切磋琢磨する日々。大変だが、100倍を超える壁に2度打ち返された。母校で教育実習をした際、ダンス部も見させてもらった。ゼロか

敗。菅生ではダンス同好会に所属した。最初は歯が立たなかった西多摩大会で優勝したいと仲間と努力。準優勝を勝ち取り、創部も実現するなど高校生活の思い出を刻んだ。卒業後は東京農業大学動物科学科に進学。教職課程を取る一

らつくりだす面白さを改めて実感。関わりた」と強く思った。今は教壇に立ち、ダンス部を任せられ、生徒たちと互いの成長を切磋琢磨する日々。大変だが、100倍を超える壁に2度打ち返された。



ダンス部顧問の長谷川教諭

ができるか。鳥肌が立つようなダンスを目指したい。目標はダンススタジアム全国大会出場」と目を輝かす。技術指導を全て任せてもらい前に進む長谷川教諭にとって、高校生にとって技術以上に大切な礼儀や集団としての在り方を根気よく指導してくれる河野教諭の支えは大きな力になっている。